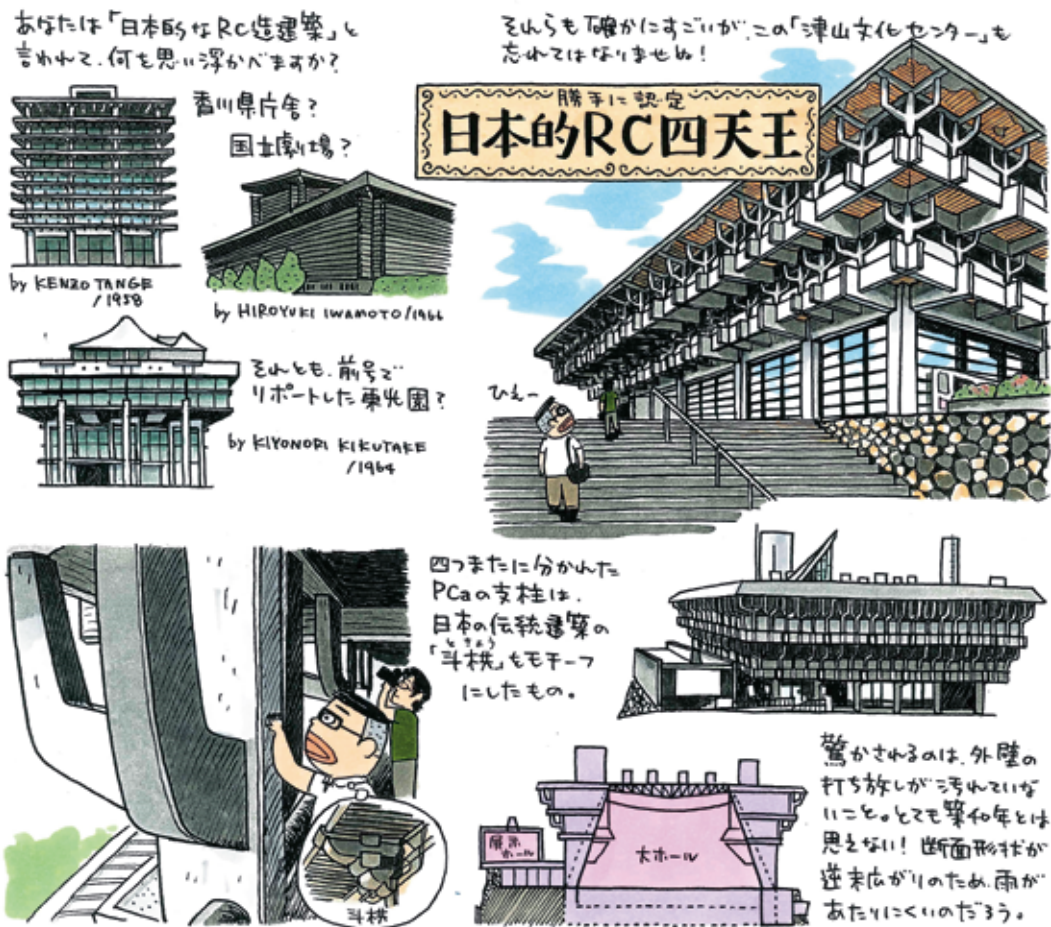


イラストでみる 中四国地方の近現代建築

— 中四国に“描きたくなる建築”が多いのはなぜか？ —



日経アーキテクチュアにて「建築巡礼」が18年目に！

2022年3月5日(土) 14:00～16:00

CPD 認定講習会
参加費無料

講師 宮沢 洋 (みやざわ ひろし) (画文家、株式会社ブンガネット代表取締役)

場所 オンライン及び岡山会場 (岡山理科大学 AI 号館プレゼンテーションルーム)

定員 オンラインは制限なし、岡山会場は定員 30 名

申込 中国支部 Web ページより事前申し込みを行ってください。

主催 日本建築学会中国支部

後援(予定) 岡山県、岡山市、岡山県建築士会、岡山県建築士事務所協会、JIA 岡山地域会

中四国地方は、古代出雲・吉備王朝など国の始まり以前からの異なる歴史を持ち、日本海から瀬戸内、更には太平洋に面するなど異なる気候風土や地勢の違いから、それぞれの伝統文化に彩られ多様である。建築に目を向けても、それらの多様性を反映しているように見える。

今回の支部研シンポジウムは、中四国地方の近現代建築に視点を当て、建築ジャーナリストが描くイラストを通じて、その多様性や類似点を見出し“描きたくなる建築”が多い理由を探る。

写真と違いイラストは描き手の意図が明確に表れ、その建築の特徴を浮き彫りにすることから、中四国地方の近現代建築の特徴を見出したい。香川の丹下建築、島根の菊竹建築、岡山の前川建築、倉敷の浦辺建築など、地域ごとに異なる建築家作品が集中している点は地域に個性を与えており、地域の活性化や街づくりへの貢献にも着目したい。

講師略歴	みやざわ ひろし 宮沢 洋
1967年	東京生まれ
1990年	早稲田大学政治経済学部卒業
同 年	(株)日経BP入社
2016～2019年	日経アーキテクチャ編集長
2021年	(株)ブンガネット代表取締役

